

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岡山市立芳泉小学校・岡山市立芳泉小学校ひばり分校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計	教員数
学級数	6	6	6	6	5	6	4	39	49
児童数	225	214	231	206	187	231	13	1307	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

3・4年生 算数（子どもの理解度に差が出やすい教科，学年であるため）

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの希望を配慮しながら，理解や習熟に応じて少人数学級に分け，それぞれのコースに合った指導方法を工夫することにより，自らつかんだ課題を既習事項を活用して解決することのできる力がつく。 ・ 少人数学習をすることできめ細かな指導が可能となり，基礎・基本の向上を図ることができる。 ・ 少人数学習のコースを設けることで「自分のペースで学習したい」という願いに応えることがより可能になる。さらに，「できる」「分かる」体験や算数の楽しさやよさにふれる機会が増え，算数の学習に対する関心・意欲の向上を図ることができる。 <p>研究の内容・方法 指導体制の工夫 習熟度別少人数の学習</p> <p>算数科，3・4年で実施し，学級を次の2つのコースに分け，担任と少人数担当が指導する。プレテストの結果やコースの特性により，所属したいコースは子どもと保護者とが相談して決める。担任も適宜アドバイスを行っていく。また，途中でコース変更ができるように，同じ進度で学習を進めてきた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いずみコース 教科書の内容をゆっくり分かりやすく学習するコース。 ワークシートや具体的な操作を多く取り入れながら基礎・基本をていねいに指導して，学習内容を確実に身につけ，算数が大好きになることをめざす。</p> <p>ひばりコース 自分の考えを大切にしながら教科書の内容をじっくり学習するコース。 今までに学習したこと（既習事項）をもとに，自ら考え，課題を解決する学習を通して，学習内容を確実に身につけ，算数に自信をもつようになることをめざす。さらに，自分で問題作りをしたり，応用問題を解いたりする活動もする。</p> <p>どちらのコースを選んだ場合も教科書の内容をもとに指導する。</p> </div>
--------	---

指導計画や指導案作成については、担任と少人数担当とで分担し、十分、共通理解を図る。

- ・ 少人数学習についての保護者への啓発
年度当初に、文書により趣旨や実施内容・方法について説明を行った。さらに、学年懇談会やPTA総会でも説明を行った。また、授業参観や学期ごとのアンケートを実施、感想や意見を聞いてきた。

指導方法の工夫

個に応じた指導のための2つのコース(いずみコース・ひばりコース)について、学習過程を次の4つの場面に分け、それぞれの場面において以下のように指導方法を工夫してきた。

いずみコース

(問題を知り、本時の課題をつかむ場面)

- ・ 問題場面が把握しやすいように操作活動や動作化を取り入れる等、算数的活動を工夫する。
- ・ 場合によっては、問題の数値を計算しやすいものに変える。
- ・ 問題文を読みとって、「すぐに分かること」や「これから求めること」は何かを話し合わせる。
- ・ 既習事項と未習事項をはっきりさせた後、本時の課題をできるだけ具体的につかませるようにする。

(話し合う場面)

- ・ 自分の考えが説明しやすいように、自力解決の際に使った図や半具体物等と同じ掲示物を用意しておき、それらを使って説明できるようにしておく。
- ・ 自分の考えが説明できにくい子どもには、何人かで少しずつ分けて説明させたり、教師が支援したりする。
- ・ 解決方法は1つずつ取り上げ、全員に分かるまで繰り返し説明させるようにする。また、友達の説明を繰り返し聞くことにより、解決方法が分かるだけでなく説明の仕方も理解できるようにする。
- ・ 子どもから多様な解決方法が出ない場合は教師から紹介し、簡潔性(簡単)・明瞭性(分かりやすい)・一般性(いつでも使える)の観点から解決方法を見直す時間を設定する。

(練習問題をする場面)

- ・ 本時に習った新しい考えを確かめる問題を解くことによって習熟を図るとともに必要に応じて個別指導をする。
- ・ 本時の学習における評価をし、次時の指導に役立てるようにする。

ひばりコース

(問題を知り、本時の課題をつかむ場面)

- ・ 問題場面が把握しやすいように、算数的活動を工夫する。
- ・ 問題文を読みとって、「すぐに分かること」や「これから求めること」は何かを話し合わせる。
- ・ 既習事項と未習事項をはっきりさせた後、本時の課題をつかませるようにする。

(自力解決の場面)

- ・ 使える既習事項に気づきやすいように、ワークシートを工夫したり半具体物(計算棒、お金模型等)を用いた操作活動を積極的に取り入れたりする算数的活動を工夫する。
- ・ 多様な解決方法を考えるよう、支援の仕方を工夫する。

(話し合う場面)

- ・ 自分の考えが説明しやすいように、自力解決の際に使った図や半具体物等と同じ掲示物を用意しておき、それらを使って説明できるようにしておく。
- ・ 説明は図と式を結び付けて、分かりやすく説明させるようにする。
- ・ 解決方法は1つずつ取り上げ、全員に分かるまで繰り返し説明させるようにすることで理解をより確かなものにする。
- ・ 多様な解決方法が出た場合は、簡潔性(簡単)・明瞭性(分かりやすい)・一般性(いつでも使える)の観点から解決方法を見直す時間を設定

する。その際、板書の仕方を工夫して複数の解決方法を子どもが比べやすいようにしておく。

(練習問題をする場面)

- ・ 本時に習った新しい考えを確かめる問題を解くことによって習熟を図るとともに必要に応じて個別指導をする。
- ・ 発展的な問題をしたり問題作りをしたりすることにより、新しい考えがより深められるようにする。また、これにより学ぶ楽しさや算数のよさに数多くふれさせ、進んで生活に活かせるようにしたい。
- ・ 練習問題をさせるとともに本時の学習における評価を行い、次時の指導に役立てるようにする。

平成
16
年度

テーマ

個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善

研究の見通し

算数科指導のねらいに応じて、学習の指導体制（少人数、T T）や指導方法の工夫及び教材の開発を行えば、一人一人の理解に応じた指導ができ、既習事項を活用する力が高まったり、算数科の学習に対する関心・意欲の向上がみられたりする。

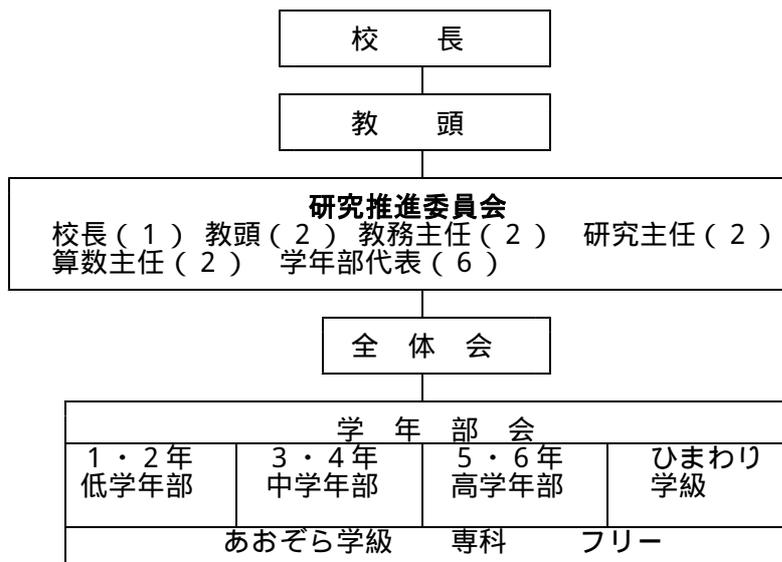
研究の内容・方法

- 1・2年団・・・指導方法の工夫
- 3・4年団・・・指導体制の工夫・指導方法の工夫（習熟度別少人数 T T 指導）
- 5・6年団・・・指導体制の工夫・指導方法の工夫（習熟度別少人数 T T 指導）

15年度の中学年の実践研究をもとに全学年での研修、実践。
前年度、今年度の実態調査の実施。
校内研修での算数科の理論研修。

(3) 研究推進体制

フロンティア事業に関する実践研究組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度は習熟度別に2つのコースを設定し、授業実践に取り組んだ。自分に合ったコースを選択できた子どもについては、教科書の内容がより理解できるようになったり、試行錯誤しながら考えることや自分の考えを友達に伝える楽しさにふれる機会が増えたりした。授業の導入時の活動を工夫することにより、題意の把握ができにくい子どもにも問題の意味が分かりやすくなり、題意を理解して意欲的に解こうとするようになった。また、未習事項と既習事項をはっきりさせる話し合いをさせることにより、本時の課題を自分でつかむ子どもも多くなってきた。自力解決では、半具体物を使った操作活動を積極的に取り入れた。このような活動を積み重ねることにより子どもたちは自信をもって自分で考える課題を解決することができるようになってきている。また、書き込みのできるワークシートを用いることにより、式と答えだけではなく、考え方も図や言葉で表そうとする態度がみられるようになってきた。12月に子どもたちに行ったアンケート結果では、3年生の97%、4年生の98%が「学習したことがよく分かった」または「学習したことがだいたい分かった」と答えている。2月17日に教研式標準学力検査(NRT)を実施し、5月の検査と比較検討する予定である。

2. 今後の課題

本年度は習熟度別学習に取り組む初年度ということもあって、できるだけ子どもや保護者がもつであろう抵抗感が和らぐようにとコースを子どもが自分で決められるようにしたり、コースを途中で変更できるように進度を同じにしたりしてきた。そのため、自分に合ったコースが選択できていない子どもが若干みられ、そういった子どもへの関わり方が課題として残った。また、2つのコースは単元の中で時間をかけたい場面が違うこともあり、授業の進度や各時間の指導目標についても今後検討する必要がある。話し合いの場面では、簡単な質問にはどの子どもも積極的に手を挙げたり発表したりしようとするけれど「自分の考えを説明する」ということに関しては全体的に自信のない子どもが多く、話し合いが一部の子どもの発言に終始しやすいという傾向が見られる。算数科におけるコミュニケーション力の底上げをしていく必要があると考えている。また、練習問題をする場面での発展的な問題についての検討が十分ではなくあまり実施できていないので、今後の課題として研究を深めたい。

学力等把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査(NRT)の実施(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度に研究発表会を開催予定
日時 平成17年2月
場所 岡山市立芳泉小学校
テーマ 「個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無